



公立高入試 後期試験がんばれ!

〔後期入試に挑んだ先輩たちからのエール〕

★I・Mくん 我孫子教室 中三S1コース在籍 (進学先) 県立東葛飾高校

私は前期入試に落ちて、後期で受かることができました。この経験を通して分かったことは、合格するには学力だけでなく、精神力もとても大切であるということです。前期で落ちたとき、いつまでも落ち込んでいたのではなく、次に自分が何をすべきなのかを考え、切り換えることが大事だと思いました。そして、もう一つ、体力もとても重要だと思えます。やはり、健康が一番です。体の健康を損なってしまつては、楽しいことも楽しくならないですし、できることもできなくなるので、体調管理はしっかりとしましょう。さらにもう一つ、後輩のみんなに向けて言っておきたいことがあります。努力を続けなければ必ず実力がつきます。しかし、だからといって絶対に結果が出るとは限りません。それでも、努力を続けることには意味があります。本気でやった上での挫折、あるいは成功はこれからの人生でとても役に立つからです。挫折すれば世の中を甘く見なくなり、成功はやる気の源になります。逆に本気でやらなければ、成功しても意味がないと思います。何が



あつても努力はし続けましょう。

★I・Hさん 我孫子教室 中三S1コース在籍 (進学先) 県立小金高校

私は三年生の十一月に、志望校を変更しました。それまで目指していたところよりも、レベルの高い高校への変更です。不可能とまでは言われませんが、周りに反対されたり、心配されたりしました。自分でもとても不安が残る決断でしたが、憧れを捨てられず、目指すことにしました。それから、学校でも塾でも、教えてもらったことや覚えたことを、納得のいくまで勉強することを意識しました。模試やテストの問題も、自分で理解できるまで、解き直しをしました。しかし、模試やテストでもいい結果が出ず、直前の模試でもD判定でした。自信がつかないまま、前期入試に挑み、ひどい結果になってしまいました。後期までこの高校を目指してよいのか、とても迷いました。そんなとき、先生に「今までやってきたことは絶対に身につけている」と言われ、後期までの一週間は自分を信じて勉強しました。そして、後期で受かることができました。自分を信じてやり続けることは、勇気があることだと思います。それを教えてくれた創学舎にお礼を言いたいです。がんばれ、三年生!

★Y・Sさん 柏教室 中三A1コース在籍 (進学先) 県立鎌ヶ谷高校

私は第一志望の高校に前期で落ち、後期で同じ高校を受けて合格しました。前期の発表から後期まで一週間しかなかったのですが、創学舎

の先生が熱心に指導してくださり、苦手な教科も高得点を取ることができました。特に理科と社会が苦手だったのですが、自分が苦手な部分の得点を少しでも上げるためにテキストのページを指定してくださったり、テキストにはない問題を解かせてくださったりしました。また、精神面でも支えてくださりました。前期の発表から一週間は精神的にもきつい日々が続いたのですが、相談に乗ってくださったり、アドバイスをしてくださったりしたので、厳しいと言われていた高校に受かることができました。ありがとうございました。

★A・Tくん 新松戸教室 中三Sコース在籍 (進学先) 県立東葛飾高校

先生たちはみんな優しく、すごくおもしろい。僕は創学舎 新松戸教室にいたからこそここまでくることができたと思う! それともう一つ僕が合格できた理由がある。それは、誰よりも努力したからだ。僕は特別な天才ではなかったのですが、努力が報われないときもあった。しかし、諦めなかった。悔しいときは泣きまくって、嬉しいときは跳びはねて喜んで、そして、志望校に合格した。

これから受験を迎えるみんなに一言。受験を乗り越えるために、みんな、気合を入れていけよ! 自分がNo.1だと思つて誰よりも努力しろ! 辛くてもきつくても絶対に諦めるな!



★N・Kさん 新柏教室 中三Sコース在籍 (進学先) 県立柏南高校

私は柏南高校を第一志望として一年間頑張ってきました。しかし、前期では残念ながら落ちてしまいました。精神的にとってもショックを受けて、合格発表当日はずっと泣いていました。後期受験まで努力し続ける自信がなく、私立に入学しようか悩んでいたとき、先生方と面談しました。私を励ましてくれる先生方にすごく救われ、後期も柏南を受けると決めました。後期までの一週間を全力で過ごせたのは、やはり先生方の励ましがあつたからだと思います。前期で合格できなかったことを悔やむよりも、後期に向けて勉強を始めることの方が大切です。創学舎の先生方と目標に向けて努力した一週間はとても充実したものでした。落ち込んだ私を励まし、合格させてくれた先生方には本当に感謝しています。今までありがとうございました。

常寄

「今までいろんなドラマがあつたな……。」この記事が発行されるときには、すでに千葉の公立高校の前期の発表を終えている頃だろうか。

小学生の休み時間、ヤンチャをしてよく怒られていた彼女たち。平気で宿題をやらずに本気でぶつかった彼ら。部活を引退するまで全くペンを握らずテニスラケットを握り続けたあの子たち。思うように結果が出せなくて、意に反して真剣に取り組めなくて、親ともたくさんケンカした。悔しくて情けなくて辛くて、ひとりでも何度でも泣いた(であろう)彼女たち。そんな君たちが、受験という関門に立ち向かう

ステージに立てていることを、まずは心から祝福したい。

そして中二までは、あれほど0点を取り続いていた英文テストを、今ではさも当たり前のように満点を取り続け、「関係代名詞はね、……」なんて教え合っている立派な姿を見せてくれるようになった君たち。果たして前期入試ではどんな結果を迎えているだろうか。今までそれぞれにいるんならドラマがあつたけれど、受験というフィナーレをどんな結末で終わらせられるのだろうか。みんなハッピーエンドであつてほしい。今はそう願うばかり。

毎年二月、三月になると複雑な感情が交錯する。希望、絶望、歓喜、喪失。光と影の感情がトレースしたように毎年繰り返される。光が強いほどに影も濃くなるもの。門出を迎える受験生を前にすると、誇らしさと寂しさが胸の中に同居する。「大丈夫。胸を張って行つておいで。」と背中を押して送り出す気持ちと「もうさよならか……」と、胸がポツカリと空いてしまう気持ち。

「さよならをして悲しませるくらいなら、仲良くならない方がよかつた。」と嘆く『星の王子さま』の一説が頭をよぎる。
「肝心なことは目に見えない」とキツネは説く。
君がバラのために情熱を傾けたからだ」と。大切な人との別れほど、感謝と喜びに比例して悲しさがあふれてくるもの、らしい。

春先、満開に咲き誇る桜。そもそも、どうして桜は春に咲くのだろうか……。
桜は散ってから三ヶ月くらい後に次の花の芽をつけ、その芽は一度眠る。そして、暖かくな

つてくるのを待つて、それから、一気に咲く。
「桜は咲くべきときを待つている」のだ。

ほんの一瞬のために、木全体の一刻も休むことのない活動の精髓が、春という時節に桜の花びらになる。



「木全体で懸命になって最上のピンク色になる」とする。見えないところで、一瞬のために。花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの先端だけ姿を出したものにすぎない。

君たちには「可能性」がある。可能性とは「これまで」ではなく「これから」のこと。「不安」というコインの裏側にあるのは「希望」だ。不安に押しつぶされそうになるのは、自分の人生に本気だからだ。どうか、その不安を受け止め、志望校が自分にとって特別なものになるように、挑戦する自分に情熱を傾けてほしい。ペン先から想いが滲み出るほどに、木全体で懸命になってほしい。今も桜は懸命になって待っている。今年の春先に、あなたと一緒に満開になって咲き誇れるときを。
(櫻村)

『本日は、お日柄もよく……。』

本日は、お日柄もよく、早朝から中学生や高校生が緊張した面持ちで、視線は前をまっすぐ向いて、駅に向かう姿が目につく季節になった。そう、受験の季節、二月……。二月って誰でも受験生の頃を思い出して、『あのころは頑張っていたな』って自分を重ね合わせる人は多い。人は頑張った記憶は忘れないものだ。受験生の姿は、見ていて羨ましいし、勇気づけられる。なんか自分ももう少し頑張ってみようかなって、思える。オリンピックに出場する日本代表選手

のように受験生のひたむきな姿で周りの人に勇気や希望を与えていると思います。そのような多くの受験生の中で私も多くを学んだ二人の受験生のエピソードを紹介させていただきます。
ひとりには小金高校を受験したHさん。彼女は公立前期入試合格者掲示で自分の番号がなかった。泣いた、泣いた。悔しくて、泣いた。ひどく落ち込んだ。中学校の担任の先生からも「志望校を柏南高校にすべきではないか。」と言われたそうだ。周りの仲間からも「そうしたほうがいいよ。」と言われた。彼女は迷いに迷った。保護者の方とHさんと私で面談をした。何時間も話し合い、沈黙が続いた。彼女が下した決断は、もう一度、小金高校を受験する、と。彼女が選んだ道は苦難の道。面談は深夜にまで及んだ。この後、彼女はすごい行動に出る。朝四時の小金高校の校門に行き、高校めがけて、こう言ったそうだ。
「私はこの春、絶対に小金高校の生徒になってやる。」
その約三週間後……彼女の番号が掲示板にあった。もちろん、彼女の番号があつたのは、早朝に小金高校に行つて叫んだからではなく、【合格すると決めた】日から毎日自習室に入り浸つたつて開室から閉室時間まで机に向かつたからだ。学校の休み時間も授業中もマイクリアをずっと開いていたと友人から聞いた。
もうひとりの中学三年生N君は公立高校後期試験であと二点足りなかつたがために、第一志望に合格できなかった。彼は体が弱いこともあり、夏休みはずっと入院していて、満身に勉強することもできなかった。そんな境遇でもくじけずに勉強したが、神様は微笑まなかつた。『彼

になんて声をかければ』と考える最中、彼が教室にやってきた。彼の開口一番に出た言葉は「これが今の僕の実力だと思えます。自分の行く高校で頑張るつもりです。今までお世話になりました。」そして同じ学校を受験して、合格した同じクラスの生徒に「おめでとう。」と堂々と笑顔で話しかけるその姿は格好よく、美しかった。
その三年後のある日、彼はいきなり顔を見せた。Nくんのあまりの変貌ぶりにびっくりした。中学時は一六〇センチ程度だった身長は一八〇センチに達していた。「覚えていますか、僕のこと。お世話になったNです。」大学受験でリベンジを果たすべく、第一志望の筑波大学に現役合格したことをわざわざ教室まで報告しに来てくれた。何よりも彼の成長が嬉しくて、誇らしくて、逞しくて……。
ふたりに共通していること。
人は誰でも失敗する。失敗しない人間はいない。ただ、その失敗とどう向き合うかがその人間の未来を大きく分けるのかもしれない。この創学舎ニュースが届く頃、合格発表で涙した生徒の皆さん。ニュースを読んでくれていて、下を向いているその君!!顔を上げている場合じゃないぞ。もし君にまだチャンスがあるならば、まだまだあがいてやろうじゃないか。フランスの作家フローベールも言っている。【人生で最も輝かしい瞬間は、いわゆる栄光のときではなく、むしろ落胆や絶望の中で、人生への挑戦と未来への完遂の展望が湧きあがるのを感じたときだ】って……。
まだまだ戦える君であることを我々は信じている。共に戦おう、同士よ。
(松尾)

